

令和5年度 芸術科 音楽Ⅰ シラバス

科目	単位	履修学年	区分	教科書(出版社)
音楽Ⅰ	2	1年	1年全クラス	Ttti+ (教育出版)

1 「音楽Ⅰ」の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 授業の内容

[表現] 表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 歌唱

ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。エ 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じて歌うこと。

(2) 器楽

ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること。イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。エ 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏すること。

(3) 創作

ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などをつけて、イメージをもって音楽をつくること。イ 音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて音楽をつくること。

[鑑賞] 鑑賞に関して、次の事項を指導する。

ア 声や楽器の特性と表現上の効果とかかわりを感じ取って鑑賞すること。イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞すること。ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

3 授業方法・形態

一斉授業(2時間連続)、講義、教科書を用いる。中学校音楽での学習を基礎にして幅広い活動を展開し、生徒の理解力、表現力の向上を図り、能力を伸ばすようにする。また、適宜、副教材等を取り入れる。

4 評価規準・評価方法 ※次の4つの観点から評価を行う。

評価の観点	趣旨(到達目標)	評価方法
1 音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇聞く(聴く)態度</li> <li>◇学習意欲(発言・積極性)</li> <li>◇ワークシート・課題</li> <li>■定期考査(筆記試験)</li> </ul>
2 音楽表現の創意工夫	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習活動の様子</li> <li>◇ワークシート・自己評価表</li> <li>■実技試験(独唱、独奏)</li> </ul>
3 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を委につけ、創造的に表している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇実技課題進捗状況</li> <li>◇学習活動の様子</li> <li>■創作曲</li> </ul>
4 鑑賞の能力	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、音楽のよさや美しさを創造的に味わっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ワークシート</li> <li>■定期考査</li> </ul>

5 年間指導計画

月	題材名	題材のねらい	主な教材	主な指導内容
	正しい発声法を身につけよう	姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージをもって歌う。	校歌/ひまわりの約束/少年時代/イタリア歌曲 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など</li> <li>・曲想と歌詞の内容との関わり</li> <li>・声の音色や強弱、旋律の特徴などを活かした表現</li> </ul>
4	表現を工夫しながら重唱や合唱をしよう	重唱や合唱などにおける、自分の役割を意識しながら、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	故郷/翼をください 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各声部のかかわりや、音の重なり、全体の調和</li> <li>・楽曲にふさわしい表現の工夫</li> </ul>
6	ボディー・パーカッションやリズムを楽しもう	ボディー・パーカッションで様々なリズムの表現活動を行い、その経験を生かしながら音楽を作ることの喜びを味わう。	ソルフェージュ・リズム編 メロディー編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの読譜や記譜の方法</li> <li>・ボディー・パーカッションによるリズム・アンサンブル</li> <li>・ワークシート学習</li> </ul>
7	楽典(楽譜の読み方)	反復記号、音符の読み方を学ぶ		
	三線に挑戦しよう	楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する。また、歌いながら弾けるようにする。	安波節/安里屋ユンタ/涙そうそう 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三線の音色や奏法の特徴を知る</li> <li>・三線の弾き歌い</li> <li>・ワークシート学習</li> </ul>
9	ミュージカルナンバーを歌おう	あらすじや物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、楽曲にふさわしい表現をする。	Memry/Oh Happy Day/DVD鑑賞	ミュージカルや映画などを鑑賞し、音楽の多様性を理解して、その良さを味わう
10	キーボードでアンサンブル	鍵盤楽器に親しみ、実際の演奏を通し読譜力の向上を図る。	ピアノ曲(任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで役割を分担し練習する</li> <li>・アンサンブル発表</li> </ul>
11	音楽文化について			
12	・音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取る	様々な楽器によって生み出される響きを聴くとともに、文化的・歴史的背景や作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解する。	ボレロ/交響曲第9番<合唱付き>/春の祭典 他 能と狂言 歌舞伎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> <li>・音楽を形作っている要素の知覚とそれらの働きを感じる</li> <li>・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴</li> </ul>
1	文化的・歴史的背景を理解して、日本の伝統音楽やオペラを鑑賞しよう	文化的・歴史的背景など総合的に特徴を理解する。また、我が国の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解する。	舞楽/能(石橋)/歌舞伎/オペラ 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とヨーロッパの総合芸術における表現の特徴と、それらの共通点</li> <li>・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> </ul>
2				
3	ギターを弾いてみよう まとめと反省	ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取り、表現を工夫しながら演奏する。 1年間の学習活動を振り返り、自己評価を行う。	・糸/きらきら星/ていんさぐぬ花 卒業の歌/合唱曲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギターの音色や奏法の特徴を理解する</li> <li>・音楽を形作っている要素の知覚とそれらの働きを感じて表現する</li> </ul>